

全国高等学校総合文化祭 東京大会 文芸部門

松下 和珠

二日目 開会式・文学研修

八月二日から四日まで、全国高等学校総合文化祭が東京で開催され、私は文芸部門に参加しました。感染症対策のため、会場を二つに分けた形で開会式が行われました。私は準会場であり、本会場の様子をリモートで見るとい形でしたが、本会場と変わらず緊張感が漂っていました。本会場での代表生徒による挨拶や様子から自分が全国大会に参加しているのだと改めて実感しました。

開会式を終え、東京の文芸文化にまつわる名所を巡る「文学研修」に参加しました。東京都の実行委員の方が丁寧に誘導してください、東京の文学の歴史に触れることができました。研修の最後に訪れた「村上春樹ライブラリー」では、今までの作品だけではなく、人物像が分かるような展示もされており、更に興味を持つきっかけになりました。また、見学中に朝日新聞社の方からのインタビューに答える機会

があり、緊張しつつも文学研修の内容や感想を述べることができました。初日だけでも、貴重な経験をさせて頂き、とても有意義な一日でした。今年度は「東京大会」ということで東京都が主催であり、東京都の文芸部実行委員の生徒たちが全国大会参加者のために、色々な工夫をしてくださったおかげで充実した大会になりました。



二日目 部門別交流会

二日目の部門別交流会では、全国から来た俳句部門の代表生徒と様々な交流をしました。最初のアイスブレイクでは、記憶力を図るゲームに自己紹介を加えたものを行いました。単純なゲームでしたが、とても盛り上がり、代表生徒たちと交流を深めることができました。

その後、講師の江見悦子先生による講演と、吟行句を詠むという活動をしました。講演会では、俳句の魅力や俳句を詠む際に注意すべき点などを先生の経験や作品を用いて説明して下さいました。先生が話して下さった内容を念頭に置き、会場の聖心女子大学構内を吟行し、俳句を詠みました。グループの生徒たちと他グループの作品を講評し合い、どの作品のどの部分が良かったのかなどを発表したり、表現について質問をしたりして、俳句をより楽しむことができました。この経験を部に還元し、これからの創作活動に活かしたいと思います。

〈三日目 講演会・閉会式〉

最終日の三日目は、小説家の谷村志穂先生の講演会がありました。谷村先生は、自身の体験から小説の面白さや難しさ、魅力を話してくださいました。私が学んだことを部員に伝え、さらなる創作活動の活性化に繋がりたいです。質疑応答では、全国の生徒から小説を書く時のコツや気を付けるべきこと等が質問されており、丁寧に回答して

くださいました。誰にでも理解できる、興味を持ってもらえるような小説を創れるように意識していきたいと思いました。

閉会式では、来年の全国大会である鹿児島大会に向けて、バトンを渡し、鹿児島県代表の生徒が挨拶をしました。私達青総の文芸部は有り難いことに三年連続全国大会に出場しており、来年の大会にも部員が出られるよう、皆で切磋琢磨していきたいと思います。

この三日間、地元東京の文芸文化に改めて触れることができました。文芸文化に触れたことで、創作活動への関心を高めると共に、部員と今よりも良い作品を創りたいと思うようになりました。この3日間の貴重な経験を胸に刻み、部員皆と更に成長していきたいと思います。

